

Browse files

サンプルデータを使用 ②

Treasury Management Agent

Dashboard Data Viewer Analysis Agent Chat

Agent Chat

依頼内容を入力してください

1ドル160円になった場合の影響を分析してください。

タスク生成

タスク実行状況

	category	status	task	input	output	output_columns
1	prepare	~	payablesデータからUSD建て項目のみを抽出し、現状レート(fx_rates)と1ドル	payables fx_rates	df_payables_usd_fx_sim	invoice_id vendor_id vendor_name received_date due_dat
2	prepare	\checkmark	receivablesデータからUSD建て項目のみを抽出し、現状レート(fx_rates)と1ド	receivables fx_rates	df_receivables_usd_fx_sim	invoice_id customer_id customer_name issue_date due_da
3	prepare	\checkmark	loansデータからUSD建て項目のみを抽出し、現状レート(fx_rates)と1ドル=16	loans fx_rates	df_loans_usd_fx_sim	loan_id lender_name loan_date maturity_date principal_ai
4	prepare	~	investmentsデータからUSD建て項目のみを抽出し、現状レート(fx_rates)と1	investments fx_rates	df_investments_usd_fx_sim	security_id security_name asset_class acquisition_date qu
5	prepare	~	derivativesデータからUSD/JPY関連のデリバティブのみを抽出し、現状レート(derivatives fx_rates	df_derivatives_usdjpy_fx_sim	contract_id trade_date maturity_date derivative_type notice
6	prepare	~	transactionsデータからUSD建ての取引のみを抽出し、現状レート(fx_rates)と	transactions fx_rates	df_transactions_usd_fx_sim	日付 口座ID 取引ID 取引タイプ 金額 通貨 概要 椎
7	visualize	~	各主要勘定(現預金、売掛金、買掛金、借入金、投資)のUSD建て項目につい	df_balances_usd_fx_sim df_p		None
8	visualize	~	USD/JPYデリバティブの現状・160円シナリオ評価額とヘッジ効果をグラフで可	df_derivatives_usdjpy_fx_sim		None
9	visualize	~	将来キャッシュフロー (USD建て買掛金・売掛金・借入金等) の現状・160円シ	df_payables_usd_fx_sim df_r		None
10	report	$\overline{\mathbf{v}}$	現状と1ドル=160円シナリオの差分シミュレーション結果を総合的にまとめ、技	df_balances_usd_fx_sim df_p		None

データ



ビジュアル



勘定
log
code

借入金

買掛金

レポート

レポート

エグゼクティブサマリー

1ドル=160円となった場合、USD資産・負債の円換算額には「10%強」の増加が生じ、総資産・損益・将来キャッシュフローに大きな影響が見込まれます。グループ全体のバランスシート(BS)インパクトは約2,184億円(純増)、損益(PL)インパクトは約2,426億円分(評価益+デリバティブ含む)、キャッシュフロー(CF)は約102億円分円換算で増加する見込みです。為替デリバティブによるヘッジ効果は一部確認されますが、想定為替水準が大きく変動することで「未実現の評価益」が大きく増加します。

分析方法

- 各USD建て資産・負債・取引について、現状為替レートと1ドル=160円の2シナリオで円換算額を計算。
- 項目別(現預金、売掛金、買掛金、借入金、投資、デリバティブ、将来CF)に現状→160円シナリオの「差分」を集計。

売掛金

- デリバティブは「評価額差分」としてヘッジインパクトを計測。
- 損益影響合計は資産・負債・デリバティブ・将来キャッシュフローすべての差分の合計とした。

分析結果

1. 資産・負債(BS) 為替差分

- USD建て現預金・売掛金・投資:+2,198**億円**(評価増)
- USD建て買掛金・借入金:+67**億円**(評価増=支払額増=負債側にマイナス)
- BSベースでのUSDポジション純増:+2,184億円

2. 損益 (PL) 全体インパクト

・ 各ネット為替差損益+デリバティブ損益合計:+2,426億円(≒増減金額合計)

3. キャッシュフロー (CF) インパクト

• 期中・将来のUSD建て取引の「差分」:+102**億円**(円換算の受取増・支払増を含む)

4. デリバティブ・ヘッジ効果

- デリバティブ(主に為替予約)の損益寄与:+5.7億円
- 評価額の変動幅(ヘッジ感応度)は基礎残高の7倍超(PL変動に大きく寄与)

5. 主要勘定ごとの変化率

• おおむね**10.3%(現状為替との差分/現状円換算額より試算)**がUSD建て資産/負債に反映

発見事項 • 示唆

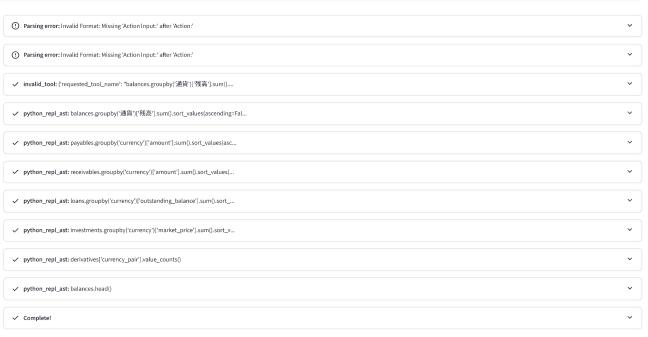
- USD建て資産を多く保有する場合、急激な円安は「未実現の為替差益」としてBSおよびPLを大きく押し上げる。
- USD負債も為替影響を受けて増加する(支払総額が円換算で増える)が、資産超過ポジションである限り円安は純増に作用。
- デリバティブによるヘッジポジションはある程度リスク平滑化に寄与するため、リスク管理上バランスの最適化検討が有益。
- 実際のCF増減は将来の決済時点で実現されるが、会計上は評価損益(PL)およびBSインパクトが先行する点に留意。

使用データ一覧

- df balances usd fx sim (現預金USD)
 - 。 インパクト差分:2,196**億円**
- df_payables_usd_fx_sim(買掛金USD)
 - 。 インパクト差分:54**億円**
- df_receivables_usd_fx_sim(売掛金USD)
 - インパクト差分:55億円
- df_loans_usd_fx_sim(借入金USD)
 - 。 インパクト差分:13**億円**
- df_investments_usd_fx_sim(投資USD)
- 。 インパクト差分:**0.01億円**
- df_derivatives_usdjpy_fx_sim
 - 。 インパクト差分 (評価増):5.**7億円**
- df_transactions_usd_fx_sim
 - 。 インパクト差分:**102億円**

本分析結果は現状レートと160円シナリオの差分に基づいた一時点での定量評価です。 実際の実現損益・CFは今後のマーケット次第で変動するため、定期的なアップデートとリスク管理推進が重要です。

⑥ 追加でヘッジが必要な通貨があれば教えてください。



USD以外で追加のヘッジが必要と考えられる通貨は、以下の通りです。

- 1 ELID (7-III)
- 。 現預金・投資・売掛金・買掛金・借入金など、全ての主要勘定でEUR建て残高が比較的大きい(例:balancesで約10億EUR、payables/receivables/loans/investmentsでも上位)。
- 。 デリバティブ(為替ヘッジ)保有数は「EUR/JPY」9件と、USD/JPYと同等かやや少なめ。残高規模に対して十分かは再検討が必要。
- 2 GRP (茁ポンド
- 。 売掛金・買掛金・現預金・投資・借入金いずれもGBP建てが上位(例:receivablesで約4,200万GBP、payablesで約3,100万GBP)。
- 。 デリバティブ(GBP/JPY)は20件と比較的多いが、残高規模に対して十分かは要確認。
- 3. AUD (豪ドル)
- 。 現預金・投資・売掛金・買掛金・借入金でAUD建て残高が大きい(balancesで約8.7億AUD、payables/receivables/loans/investmentsでも上位)。
- 。 デリバティブ(AUD/JPY)は10件。残高規模に対してやや少なめ。
- 4. SGD(シンガポールドル)
 - 。 現預金・投資・売掛金・買掛金でSGD建て残高が大きい(balancesで約6.5億SGD、payables/receivables/investmentsでも上位)。
 - 。 デリバティブ(SGD/JPY)は12件。残高規模に対してやや少なめ。

【結論】 USD以外では「EUR」「GBP」「AUD」「SGD」建てのポジションが大きく、為替変動リスクが顕著です。現状のデリバティブ(ヘッジ)保有数はある程度ありますが、残高規模に対して十分とは 言い切れません。特にEUR・AUD・SGDは追加ヘッジの検討余地が大きいと考えられます。

今後の為替変動リスク管理の観点から、これら通貨のヘッジ方針・ヘッジ比率の見直しを推奨します。